

天喜妻妻禮

六十三

自享保元年十月
至同二年十一月

内閣文庫	
番號	和 35015
冊數	71 (62)
函號	150 53

内閣文庫	
三九〇一 九	和書類
三四 冊	
一五〇 函架	

共七十四



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



天享吾妻鑑

自二百十壹
至三百十伍

六十叁

天守御書

三月十日
自三十四日

六十一

天守御書
保元元年

三月十日

一期日
月次之御書無之

今晚御書
御書院
御書院
御書院

御書院
御書院
御書院
御書院

御書院
御書院
御書院
御書院

御書院
御書院
御書院
御書院

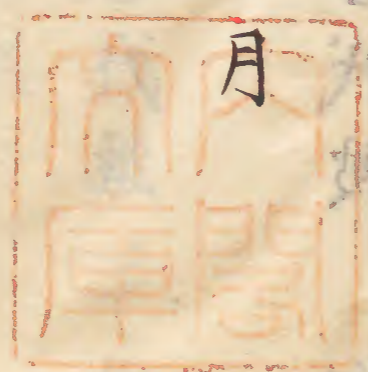
御書院
御書院
御書院
御書院

御書院
御書院
御書院
御書院

天享吾妻鑑卷三百十一

享保元丙申年 至十一月

一朔日 月次之御禮無之



今晚御玄猪御祝二付暮六時御白書院

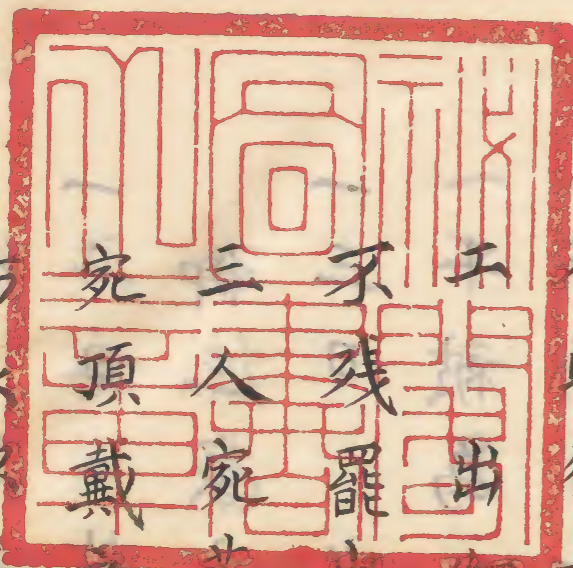
不出御御譜代衆并諸御役大御番頭

不殘罷出御書院番頭御小姓組番頭八

三人宛芙蓉之間御役人八御役坊一人

宛頂戴之其外不殘相濟候迄御著座

布衣以上御手自御餅被下之御規式



例年之通五時入御

一二日 昨晚御玄猪御規式相濟候ニ付

御三家方ヨリ使者

一三日 九半時御臺所口ヨリ御天守臺

工被為成

一四日 二之九被為成

一五日 無別條

一六日 同断

一七日 二之九被為成

一八日 上野御靈屋 御名代被 仰

一附 無別儀

一九日 無別儀

一十日 上野御靈屋 御名代被 仰

付同

一十一日 無別儀

一十二日

右被為 召之同姓造酒之助幼年ニテ

死去ニ付跡式之儀ハ 不及御沙汰領地

被 召上候造酒之助 第喜三郎ハ 新規

被 召上候造酒之助 第喜三郎ハ 新規

壹万石被下之旨於波之間老中列坐井
上河内守申渡又

加藤出雲守

右願之通隱居被仰附家督大藏工被

下之旨老中列坐井上河内守申渡又

御使番三枚丹渡守組寛新太郎

同 德永兵部

右豊前中津城請取御目附可被遣之旨
被仰付

一十三日 無別條

一十四日 増上寺 御佛殿工被為 成

一四半時 還御

一明十五日 月次之御禮有之表向五半時

一揃之由

一十五日 辰ノ后刻御表工出御月次

一之御礼相濟

御腰物奉行 御小姓組戸肥前守組 小野助九郎
横山伊左衛門跡

御膳奉行 御小姓組鈴木能登守組 松平左源次

同 新御番松平主馬組 大草彌五右衛門

御臺所頭

小番詰ヨリ

酒依半平

右之通被仰付之旨老中被申渡

一駿府加番歸左之通

岩城伊豫守

堀田主膳

内藤采女

右之通御目見被仰附

一初子御目見

伯耆守嫡子

溝口久三郎

一住職之御礼

越前

永平寺

一御代替之御禮

京東守惣代

金勝院

一住職之御礼

生實

大巖寺

一参上

京都

松梅院

一御代替之御禮

伊勢御師

春木太夫

一同断

同

山本太夫

右之通御通掛一同之御礼被仰附

一十六日京都工御暇左之通

一金百牧時服十松平出羽守

一金二十牧中條對馬守

右之通相濟

一十七日無別條

一十八日 小次郎様御玄関前通御長屋
御門ヨリ御廣 工九時過被為入

一十九日 無別條

一廿日 跡目被 仰付左之通

一廿一 高家 能登守養子 織田大膳

一廿二 寄合 撰津守子 中根七之助

一廿三 松前伊豆守組 半左衛門嫡子 駒井善左衛門

一廿四 伊澤播磨守組 兵左衛門子 丸山權十郎

一廿五 松前伊豆守組 喜之助子 徳永権左衛門

一廿六 朽木和泉守組 藤助養子 鷓殿内記

同人組 松平九郎右衛門嫡孫 坂井清右衛門

大久保淡路守組 又市嫡孫 齊藤三十郎

松前伊豆守組 左門子 松平小平次

朽木和泉守組 忠左衛門子 大岡主税

大久保淡路守組 織部養子 稻生平次郎

朽木和泉守組 平左衛門子 清水主膳

大久保淡路守組 七郎左衛門嫡男 酒井傳五郎

仁木甚五兵衛組 藤三郎養子 渡邊友之助

拂方御金奉行 権十郎子 三宅千太郎

松前伊豆守組 勝左衛門養子 都築新藏

松平志摩守組

助大夫嫡男

玉虫餘五之允

酒井飛驒守組

與十郎嫡男

深原與三郎

酒井下總守組

三郎右衛門養子

大井小兵衛

松前伊豆守組

彌左衛門嫡子

吉井彌太郎

大久保淡路守組

治部右衛門嫡男

本間九八郎

大鳴肥前守組

太左衛門養子

林助右衛門

松前伊豆守組

庄之助養子

森川藤七郎

大久保淡路守組

且彦大夫次男

野村猪之助

朽木和泉守組

庄左衛門嫡男

高屋三右衛門

大鳴肥前守組

善吉養子

志村源之助門

松前伊豆守組

市十郎嫡男

窪田内藏助

大鳴肥前守組

宗右衛門養子

齊田幸八郎

醫師

養宅子

村岡金五郎

朽木和泉守組

宗庵養子

廣井次郎吉

法心院殿

源助子

雪田源八郎

御廣漆番

御奥火之番

勘右衛門養子

高井平十郎

大鳴肥前守組

源左衛門養子

林孫四郎

御表御臺所人

伊左衛門嫡男

福田角之助

同断

孫左衛門子

佐野九三郎

蓮淨院殿
御臺所人

勘助子

森 喜助

西之丸坊主組頭

宗巴養子

森 秀巴

石方棟梁

石見養子

龜 同源四郎

觀世大夫嫡男

觀世 三十郎

右之通跡目被仰附之旨

老中列座若

年寄衆待座二丁被申渡

一廿一日 御誕生之御祝儀有之

一官位被仰附之左之通

中將 松平讚岐守

一少將 畠山下總守

一京都外御名代歸於御座之間 御目

一見彼 仰附左之通

裏付御肩衣大無味 松平讚岐守

御袴十具

一御羽織二 畠山下總守

一廿二日 無別義

一廿三日 五時過濱 御殿江被為 成

右八 長福様御醫師被仰付二百俵

御番料被下之

一廿四日 増上寺 御靈屋西御名代被

仰附

一廿五日 無別義

一廿六日 跡目左之通

遠江守嫡子 南部宮内

右八遠江守跡式無相違被下置之旨於

波之間老中列座并上河内守申渡又

御使番 小出兵庫

右願之通御役 御免之旨老中被 仰

一廿七日 無別條

一廿八日 御月次之御禮有之

一廿九日 無別義

十一月

一朔日 辰ノ后刻御表 江 出御月次之

御礼有之

御留守居番 伊豫田權左衛門跡 永井三郎右衛門

右之通被 仰附

一中津城請取

新太郎

右病氣二付代小田切鞞履被仰附之
旨老中被申渡

一二日

大御番

戸田土佐守組頭

國領半兵衛備門

右病氣二付願之通御役 御免之旨老

中被申渡

大御番組頭
國領半兵衛跡

戸田土佐守組ヨリ

戸田六郎右衛門

右之通被仰付之旨老中被申渡

一三日 無別義

一四日 無別條

一五日 隱居家督左之通

寄合

小笠原筑後守

寄合

同 宮内門

松前伊豆守組

坂部八郎右衛門

寄合

同 又八郎

大嶋肥前守組

馬場藤十郎

寄合

同 左内

寄合

本多彌兵衛

同 作次郎

朽木和泉守組

森左京

右同人組

同右近
加藤八郎右衛門

大嶋肥前守組

同長三郎
松平彌助

右同人組

同萬次郎
門奈半右衛門

寄合

同助十郎
稻垣數馬

松前伊豆守組

同内平左衛門

朽木和泉守組

同藤四郎
中根孫三郎

大嶋肥前守組

同孫十郎
植村久五郎

松前伊豆守

同山久太郎
飯田次郎右衛門

右同人組

同吉十郎
龜山八郎左衛門

同新次郎

大久保淡路守組

内藤與惣兵衛

朽木和泉守組

同 金八郎

大嶋肥前守組

同 彦次郎

大久保淡路守組

同 林五左衛門

寄合

同 小田市郎兵衛

醫師

成田宗庵

右同断

同 中宗竹

大嶋肥前守組

同 太田林庵

朽木和泉守組

同 福岡久右衛門

松前伊豆守組

同 矢部藤太夫

同 市左衛門

同 市右衛門

同 宮重作左衛門

同 惣右衛門

右同人組

西殿儀左衛門

大嶋肥前守組

同重十郎右衛門

松前伊豆守組

石嶋清右衛門

同

同權之允

福村善太夫

御腰物支配

同理右衛門

本阿彌市郎兵衛

右之通被

仰付之旨老中列座若年寄

無侍座ニテ被申渡

同市三郎

一六日無別義

一七日同断

一八日上野御靈屋御名代被仰

一附

一御役替被仰付左之通

御廣敷番頭

加藤一學

一右八並之通御役料被下

御廣敷番頭

野澤源左衛門

一右八並之通御役料被下并御加増五十

俵被下之

一九日 無別條

一十日 上野 御靈屋 御名代被 仰

附

一十一日 叅勤之御禮左之通

獻上如例 松平丹後守

一 同 大村伊勢守

一 繼目之御禮左之通

一 表高家 織田大膳

一 中津工罷越候 付御暇被下左之通

一 拜領物 小田切鞞負

一 同 德永兵部

一 家督之御禮左之通 小笠原宮内

一 本多帶刀

一 繼目之御禮

一 松平小豊治

一 御暇被下

一 勝 金左衛門

一 十二日 無別義

一 十三日 二之九工被為 成

一十四日 増上寺工 御靈屋工 御名代

被 仰付

一明十五日 月次之 御禮有之 表向 五半時

一揃之由

一十五日 辰ノ中刻 御表 出御 月次

之御礼有之

佐竹壹岐守

右願之通 佐竹右京太夫家來 佐竹將監

子源次郎養子被 仰附之旨 老中列坐

二 万被申渡

一十九日 御腰物方組頭 御腰物方ヨリ 佐竹次郎太郎次

御具足奉行

小普請ヨリ

本官五右衛門

加藤一學跡

御幕奉行

御祐筆ヨリ

跡部與市郎

野澤源左衛門跡

御材木奉行

大嶋肥前守組ヨリ

渡邊源右衛門

濱地御殿奉行

松前伊豆守組ヨリ

石丸定右衛門

右之通被 仰附之旨 老中被申渡

一廿一日

一廿一日

松平丹後守

右願之通笈主膳養子被中仰附之旨老
中列坐二ノ被申渡

一廿二日 本無別義

一廿三日 二之九工被為成

一廿四日 増上寺 御靈屋工 御名代

被仰付

一廿五日 無別條

一廿六日 同断

一廿七日 明廿八日 月次之御禮例之通

五半時 揃之由

一廿八日 辰ノ中刻御表江春出御月次
之御禮有之

一初ノ御目見

金馬代

松平丹後守養子

鍋嶋主膳

一養子 御目見之御礼

松平丹後守

金馬代

壹岐守養子

佐竹求馬

右之通被仰付

一御役替被仰附左之通

一 御代官工

二 御代官工

三 御代官工

四 御代官工

五 御代官工

六 御代官工

七 御代官工

八 御代官工

九 御代官工

十 御代官工

元方御納戸ヨリ

川舟奉行ヨリ

窪田佐次

右衛門

新右衛門

内山

新右衛門

窪田佐次

右衛門

新右衛門

内山新右衛門

窪田佐次右衛門

右之通被

仰付之旨老中列座ニテ被

申渡

一廿九日

跡目左之通

寄合

朽木和泉守組

鈴木能登守組

板倉下野守組

大久保淡路守組

大嶋肥前守組

小普請方

御賄頭

御勘定組頭

大嶋肥前守組

松平志广守組

太田隱岐守組

大嶋肥前守組

朽木和泉守組

備後守子

勝田万次郎

内藏助子

戸田孫七郎

小左衛門嫡男

青木右京

七右衛門嫡男

新見藤四郎

忠大夫養子

未高藤藏

主膳子

宅間庄五郎

圖書養子

間宮一學

清九郎子

本間權九郎

八大夫子

金子又四郎

介九郎子

細井九助

半左衛門子

小栗兵庫

左次兵衛養子

彌右衛門子

松平彦次郎

源四郎養子

小林權太夫

十左衛門子

小林十三郎

大嶋肥前守組

松平志广守組

太田隱岐守組

大嶋肥前守組

朽木和泉守組

御賄頭

御勘定組頭

大嶋肥前守組

松平志广守組

太田隱岐守組

大嶋肥前守組

朽木和泉守組

御賄頭

御勘定組頭

大嶋肥前守組

松前伊豆守組

平左衛門嫡子

伊勢金十郎

右同人組

長兵衛子

小林七藏

大嶋肥前守組

源之助養子

石川太郎助

朽木和泉守組

平右衛門養子

萩原傳助

松前伊豆守組

兵部養子

牧野傳藏

朽木和泉守組

治兵衛子

高濱求馬

右同人組

珉庵嫡子

喜多村安齊

松前伊豆守組

長庵養子

吉田新四郎

朽木和泉守組

次右衛門養子

河久保清右衛門

松前伊豆守組

三郎兵衛嫡男

栗田吉太夫

御駕頭

勘右衛門嫡男

岡部淺右衛門

朽木和泉守組

權右衛門子

山本十藏

御被官大工

新八郎養子

川邊六左衛門

御納戸

七太夫養子

喜多三左衛門

右之通跡目被

仰付之旨老中列坐若

年寄

天享保元丙申年
一 御禮相濟
一 朔日
一 辰之后刻御表
一 出御月次之
一 御禮相濟
一 朔日
一 辰之后刻御表
一 出御月次之
一 御禮相濟
一 朔日
一 辰之后刻御表
一 出御月次之

天享吾妻鑑卷三百十二

一 天享保元丙申年

一 御禮相濟

一 朔日

一 辰之后刻御表

一 出御月次之

一 御禮相濟

一 朔日

一 辰之后刻御表

一 出御月次之

一 同家無御側無諸番頭詣物頭御役

衆醫師小役人迄
 但万石以上并寄合小普請外除之
 金壹兩迄 但與力并御徒壹人前
 金貳步迄 坊主衆同心以下壹人前
 右之通新錢座吳服町會所ニテ可賣渡
 候一 度ニ込合候ニ付日割ヲ以テ賣渡
 申答ニ候當極月中賣初相殘分ハ來二
 月中ヨリ可賣渡矣
 一 賣日之刻限朝五ツ時ヨリ八時迄可相
 渡候且又御勘定所ヨリ指出候印鑑ヲ

一 以テ錢賣渡答ニ候間錢調度面ハ八勝
 一 手次第右判鑑請取指遣可申矣
 一 三日 無別義
 一 四日 二之九江被為成
 一 五日 無別義
 一 六日 同断
 一 七日 明八日紅葉山 御靈屋江
 一 成之由
 一 八日 五半時紅葉山五ヶ所 御靈屋
 參詣即刻 還御



一乙日 寒氣為候 御尋以上使御三家

一方工檜御重被進之

一寒氣為候 御尋以上使檜御重被進之

一左之通

一六日 日光御門主

一五日 增上寺方丈

一寒氣為候 御尋以上使松平加賀守松

一平若狹守工檜御重被遣之

一十日 上野御靈屋江御名代

一十一日 御役替左之通

小普請方

同

酒井飛驒守組

間宮權左衛門

安藤治右衛門組

赤林半四郎

右之通御役被 仰付之旨老中被申渡

一十二日 月次之講釋林大學頭勤之

一十三日 如例年御煤拂相濟二之九上

被為成御能被 仰附

一十四日 增上寺御靈屋江御名代

一被六仰附

一十五日



目附代被

仰付左之通



番

戸田肥前守組

細井佐次右衛門

同 水野帶刀

一十六日 御加増被下左之通

一 百俵御加増 飯高市郎兵衛

御足米被下 林平八郎

一 同日 本間太郎左衛門

一 同日 境野六左衛門

一 同日 浅野理左衛門

一 同日 新見又三郎

一 同日 坂原作左衛門

同日 本目木工左衛門

同日 入江又八郎

同日 稻葉與市右衛門

同日 小宮山友右衛門

同日 伊谷武右衛門

同日 岡山市郎左衛門

右之通被下之旨 若年寄衆待

坐二 被申渡

一十八日 德川鶴千代殿

御坐之間被任少將御一獻有之
御一字并御腰物來國光代金三十五枚被進之
一官位之御禮左之通

真御太刀備中貞守代金七枚

水戸少將殿

時服六金馬代少將殿官位之御禮

水戸中納言殿

一於御前被仰出左之通

被任宰相

紀伊中將殿

一官位之御禮左之通

金三十枚時服二十

真御太刀延壽國持代金百五十貫

鍋嶋主膳信濃守三改

一官位被仰出左之通

女將

松平日向守

四品

松平備後守

同

稻葉丹後守

諸大夫

加藤大藏備後守三改

同

織田仁十郎備後守三改

同

相馬内膳因幡守三改

同

鳴津又四郎但馬守三改

同

黒田主膳出雲守三改

美濃守二改公

松平源三郎

織部正二改公

松平内記

伊豆守二改公

藤堂源五郎

下野守二改公

勝田頼母

本多清兵衛

小野介九郎

河野良以

余語古庵

同

同

同

布衣

同

法眼

同

一御書付出

覺

一御鷹居通り候節輕キ者共下馬仕候七

有之様ニ相聞候右下馬等ハ不及候間

御鷹搦無之様ニ除キ通り可申候狹キ

所ニテ行違候砌ハ馬ヲ留片付可罷在

一物躰往來之者七狹キ所ニテハ片付罷

在御鷹ニ指搦無之様ニ可相心得亥

一牛車大八車且又荷付候馬并竹本等持

通り候者右之御鷹見掛候ハ、留置也

以尤遠方ハ留候ニ不及候亥

御書

言一 可被相觸候以上

一十九日 申十二月

緣組左之通

上杉民部太輔妹 黒田甲斐守工

冷泉中納言娘 青木出羽守工

内藤主殿頭養娘 前田隱岐守工

水野出羽守娘 米倉主計工

遠藤伊豫守妹 阿部帶刀工

久松大和守娘 榊原權四郎工

久留伊勢守娘 神谷與七郎工

永田彌左衛門娘 十兵衛子 近藤勘兵衛工

寄合 森川半右衛門娘 孫左衛門子 松平孫三郎工

右願之通縁組被 仰附之旨老中被申

渡

一御役被 仰附左之輩

中奥御小性 宇津采女

同 阿部帶刀

同 松平造酒之允

同 稻葉織部

一御免之旨老中被申渡左之通

間宮庄衛門

一御役被仰附之旨老中被申渡左之輩

御鷹匠頭 間宮左衛門跡 小栗長右衛門

御鷹匠組頭 間宮庄八

御手鷹匠 小堀彌五左衛門

一養子被仰付左之輩

朽木十兵衛 朽木丹後守工

細川備後守工 津田外記工

青山大膳亮弟 青山近江守工

右願之通養子被仰附之旨老中被申

渡

一廿日無別義

一廿一日京都歸於御座之間御目

見左之輩

松平出羽守
中條對馬守

仰附左之輩

御登山二付以大友因幡守被
進之左之通

時服三綿子二
日光御門主 江

一廿三日 無別義

一廿四日 増上寺 御靈屋 江 御名代

一相濟

一廿五日 跡目左之輩

寄合 土佐守嫡男 荒川圖書

御留守居番 權左衛門嫡男 伊豫田權之助

大久保淡路守組 十郎左衛門養子 永井左内

寄合 采女嫡男 金田猪之助

同二男 同 幸次郎

御小納戸 六之進養子 橋本孫次郎

土屋丹後守組 金左衛門子 榊原權七郎

寄合 勘左衛門養子 中山秀右衛門

戸田肥前守組 八左衛門養子 近藤新之允

稻葉下野守組 源八郎子 嶋田直次郎

大嶋肥前守組 太兵衛嫡男 小花和伊織

大棟梁 大隅子 平田七郎左衛門

跡目被 仰附之旨老中列座若

坐二テ被申渡

一廿六日 病氣ニ付願之通御役 御免

被仰付左之通

大御番組頭 稻垣長門守組與頭 小林勝之助

一御役被仰附之旨老中被申渡

大御番組頭 稻垣長門守組ヨリ 日比野七右衛門

小林勝之助跡

一廿七日 明廿八日月次之御禮有之表

向五半時揃之由

一廿八日 辰ノ后刻御表上出御月次之

御禮相濟并任官之御禮左之通

真御太刀助宗代貫 紀伊宰相殿

金十枚時服三十

銀馬代 高井飛驒守

同 市川伊賀守

同 土岐信濃守

時服十金馬代 松平日向守

同断 松平出羽守

銀馬代 中條對馬守

代 松平備後守

寺以五金馬代

銀馬代

稻葉丹後守

加藤大藏少輔

織田備後守

相馬因幡守

嶋津但馬守

松平義濃守

藤堂伊豆守

松平織部正

勝田下野守

一跡目被仰付左之通

大久保淡路守組八郎左衛門嫡男杉田八之允

松前伊豆守組兵左衛門養子江田市三郎

大嶋肥前守組金左衛門子織田傳十郎

拂方御納戸伊左衛門嫡男松平孫次郎

板倉筑後守組宇右衛門子野間鉄五郎

戸田土佐守組久三郎子青木久五郎

松前伊豆守組勝之助養子菅沼宇平次

朽木和泉守組十郎右衛門養子國領金彌

濱御殿奉行彦八郎養子安田長三郎

肥前守組七郎右衛門子中嶋平吉

醫師

良川嫡男

須广良格

大久保淡路守組

忠左衛門養子

館野久右衛門

同人組

又右衛門嫡男

横屋幸之助

二九御廣敷漆番

大兵衛養子

芦澤藤左衛門

壽光院殿漆番

傳兵衛嫡男

加藤傳右衛門

大嶋肥前守組

弥四郎養子

三宅万次郎

同人組

繁右衛門養子

林源右衛門

御表御臺所人

長九郎養子

中村幸八郎

一歲暮之御禮左之通

山王別當

觀理院權僧

一神同奏神主之旨於中樹下民部

古神田明神之神主日芝崎宮内

連歌師

里村昌億

一駿府御目附歸

御目見左之徒

一茶御使番

井上左門

古同 荒川内記

一國廻歸 御目見左之通

御小性組

三枝丹波守組

御手洗新太郎

一歲暮之御礼左之面々

連歌師

銀座之者共

後藤庄三郎

吳服師共

幸阿彌

右八之御通掛一同之御目見

一叅上御礼

一御代官

御代官

平岡三郎右衛門

一御目見

日

遠山半十郎

一右八之御通懸御目見

一御褒義被下之旨老中列座若年寄待坐

二之左之輩工被申渡

金二枚
時服二羽織

堀田源右衛門

一御同断

金二枚

加藤右近

一御日

渡邊外記

一御日

稻葉多宮

一御日

三宅大學

一御日

中根半十郎

一御同断

上田新四郎

金三枚

山田小兵衛

同三枚

杉岡彌太郎

同断

竹村惣左衛門

一廿九日 無別義

一 金三枚

同備

一 御表江出御

一 金二枚

天享吾妻鑑卷三百十三

一 享保二丁酉年二月至二月十五日

正月

一 朔日辰上刻緋之御装束被為 召

一 御表江出御為年頭之御祝儀御三家

一 方御登城御太刀目錄御老中御披露

一 御禮被仰上御盃御時服御頂戴如例年

一 御規式相濟畢而御家門方并御譜代諸

一 大名御太刀目錄持叅年始之御禮申上

一 御盃御流時服頂戴之如御佳例御規式

相濟

一明二日出仕五時揃之由

一二日辰ノ上刻緋之御装束被為

大廣間江出御外様大名羊頭之御礼

御太刀目錄持参御盃又ハ御流時服頂

戴如御佳例御規式相濟

一京都工御使役被之太友因幡守

日光廿日御名代阿部伊勢守

右之通被下仰出之伊勢日光十七日八

天御服中故無之百十三

一明三日出仕五半時之由

一三日己ノ上刻御白書院江出御年

頭之御礼無官之面ニ長袴着之如御佳

例相濟

一同日晚御謠初如例年御規式相濟

一四日無別義

一五日明六日如例年寺社之御礼有之

一六日寺社之御礼進上物持参羊頭之

御礼如例年被為請

一明七日七種之御祝儀有之由

一七日 為七種之御祝儀御三家方御登
城如御佳例相濟

一八日 上野之御靈屋工御名代被

一仰附

一九日 明十日上野工御成之由

一十日 五半時上野御靈屋工御行列

一十一日 御參詣被遊候御三家方二七御

豫參之由

一明十一日 御具足之御祝儀出仕五半時

一揃之由

一十一日 己ノ中刻御黒書院江出御

如御喜例御具足之御祝御譜代衆登

一城在之

松平右京太夫

一右登城之刻溜間詰之次二付御目

一見仕候様二席ヲ被仰渡

一御加増被下左之徒

二千石

小笠原肥前守

千石

有馬兵庫頭

千石

加納遠江守

一御役替被 仰付左之輩

御目附

御使番ヨリ

大久保市郎右衛門

御徒頭

新六郎

一十二日 無別義

一十三日 二之九 被為成

一十四日 明十五日 月次之御礼有之表

向五半時揃之由

一十五日 辰ノ中刻御表へ 出御月次

之御礼相濟其外御禮安有之

一十六日 願之通御役 御免之旨老中

一被申渡左之徒

寛五左衛門

一御役被 仰附之旨老中被申渡左之通

西丸御切手番頭 大御番酒井飛騨守組ヨリ
寛五左衛門跡 足田新九郎

一十七日 無別義

一十八日 同断

一十九日 二之九 被為成

一廿日 無別義

一廿一日 同断

一廿二日 本郷九山辺ヨリ未ノ刻前出
 火小川町邊不残神田橋一ツ橋之内工
 焼入火名小路工又ヶ八町堀木挽町邊
 二ヶ止ル
 一廿三日 明廿四日 紅葉山江 御成之
 由
 一廿四日 巳ノ上刻紅葉山両 御霊屋
 工御装束ニヶ被遊 御参詣即刻ニ還
 御
 一廿五日 式參拜通御儀

松平伊豫守

酒井修理太夫

右被為香召之居宅類焼ニ候得共願之
 通増上寺御普請御手傳唯今迄之通被
 仰附之旨老中被申渡
 一廿七日 松平安藝守
 右被為召公儿廿二日火夏之節早速
 罷出防候段達 上聞太儀ニ部思召候
 段上意之旨老中演達

一明廿八日月次之御礼有之表向五半時
揃之由

一廿八日辰ノ后刻御表江出御月次
之御礼相濟

一御役替於御前被仰付左之面々

御先手御使番ヨリ倉橋三左衛門
永井刑部跡

御使番倉橋御徒頭ヨリ諏訪兵部
三左衛門跡

御使番寄合ヨリ朝倉甚十郎

同御書院阿部遠江守組ヨリ戸川五左衛門

同同戸田備後守組ヨリ嶋五郎左衛門

同同井上讚岐守組ヨリ平岩七之助

同同森川下總守組ヨリ山岡孫七郎

同同小姓組酒井對馬守組ヨリ駒井治右衛門

御徒頭同小姓組酒井對馬守組ヨリ牧野新平

一病氣ニ付願之通御役御免之旨老中

一被申渡左之通永井刑部

一居宅類焼ニ付加役御免之旨老中被

一申渡左之通

堀田源右衛門

一加役被 仰付之旨老中被申渡左之通

一安部式部

一廿九日 無別義

一晦日 増上寺 御靈屋へ 御名代井

上河内守被 仰附

二月

一朔日 如例年月次之御礼無之

一年始之為御禮御登 城 御對顔之上

左之通

一御太刀馬代

三束二卷

日光御門主

一進物持参 天台宗 出家申

一巡見 罷越候曾我平次郎日 向庄兵衛

小笠原八右衛門居屋敷類焼二付為代

左之面之被 仰附

御使番 有馬内膳

御小姓組 大園土佐守組 天野傳兵衛

御書院 板倉下野守組 小菅伊右衛門

一二日

間部越前守

右居屋敷御用ニ付被召上之為代地

芝三田毛利飛驒守上ヶ屋敷六千五百

坪余被下之旨老中被申渡

右願之通御役御免之旨名代坪内能

登守工被申渡

一三日

御役替左之輩

町奉行松野 御普請奉行ヨリ 大岡能登守

御普請奉行 御目付ヨリ 九茂五郎兵衛

大岡能登守跡 御先手櫻井 寄合ヨリ 榊原安藝守

川舟奉行窪田 少十人長田新右衛門組ヨリ 遠藤五兵衛

右之通被仰附

一病氣ニ付願之通御役御免之旨老中

被申渡左之通

櫻井庄之助

一年罷寄候迄大切之御奉公無恙相勤候
依之為御廢羨被下之旨老中被申渡左

一之通

一金五枚時服五
松平野壹岐守

一五日無別義

一六日當秋大坂御加番被仰附左之

輩

堀左京亮
酒井石見守

一京極主膳正
松平彈正少弼

一當四月御法夏御用被仰付之旨老中

被申渡左之徒

松平對馬守
土井伊豫守

仙石丹波守
大久保下野守

一御法夏御用被仰附之旨老中被申渡

左之輩

一御賄頭
境野六左衛門中

一御祐筆
馬場木工之助

一八同
諸星友之進

一十同
大橋藤九郎

小普請方
太田伊兵衛

同

日根藤助

一七日 無別義

一八日 久世大和守願之通鳥居丹波守

屋敷被下之

一九日 屋敷替被 仰附之旨老中被申

渡左之輩

一橋之外勝田周防守同下野守管沼

新兵衛門林 齊屋敷被下之

松平紀伊守

瀧之口松平紀伊守上ヶ屋敷被下之

橋之外屋敷ハ可指上候

小笠原右近將監

一橋之外中屋敷御用ニ候間為代地

柳原水野出羽守上ヶ地之内千六百

九十八坪被下之 松平右近將監

大手前久世大和守上ヶ屋敷被下之

田安御門之内屋敷ハ可差上候

堀田伊豆守

田安御門之内屋敷御用ニ候間可指

上候為代地一橋之外松平右近將監

中屋敷卜高井飛驒守山本藤四郎屋敷被下之
安藤右京亮
神田橋外屋敷御用二候間可差上候
為代地吳服橋之内中山出雲守役屋敷被下之
植村土佐守
田安御門之内屋敷御用二候間可指上候為代地常盤橋之内阿部豊後守漆屋敷黑田豊前守副屋敷被下之
增山對馬守
一橋外屋敷御用三付可指上候為代

地神田橋之外御用屋敷被下之

一橋之外屋敷御用二付可差上候為代地柳原水野出羽守上ノ屋敷ノ内朽木土佐守
小川町之屋敷狭ノ候二付神田橋通之内伏屋備前守屋敷引替被下之
松平石見守屋敷被下之
伏屋備前守

常盤橋之内屋敷御用二付可指上候
為代地柳原水野出羽守上ノ屋敷之
内二テ千七百坪被下之
牧野伊勢守
常盤橋之内牧野伊勢守屋敷町奉行
役屋敷二被仰付候間可被得其意
候唯今迄之屋敷八植村土佐守二被
下之
中山出雲守
一橋之外屋敷御用二付可差上候為
代同所竹田源次郎屋敷被下之

林牛齊門

一橋之外屋敷御用二付可差上候為
代地神田橋通中川市右衛門屋敷被
下之
高井飛驒守
一橋之外屋敷御用二付指上為代地
神田橋通村上源左衛門村山元格屋
敷被下之
菅沼新左衛門
一橋之外屋敷御用二付差上為代地
清須三之允小川文之進屋敷被下之

山木藤四郎

神田橋通屋敷御用二付差上為代地
護持院殿洪江通玄預り地二百五十
坪被下之
神田橋之外屋敷御用三付差上為代
地小川町瑞春院御用屋敷之内二千
坪被下之
一屋敷御用二付被召上左之輩
勝田周防守
米津周防守
村上源左衛門
森川與右衛門

酒井大學

清須三之允

小川文之進

護持院

右御用二付被

召上候代地八追而可

被遣之旨老中被申渡

一御役被仰附左之輩

御小姓

半太夫嫡子

小出十右衛門

御小納戸

飛驒守嫡子

高井兵左衛門

同

次郎左衛門嫡子

中嶋長之允

一十日 上野

御靈屋

江 御名代阿部

豊後守被仰付

一十一日 所替被 仰付左之通

高崎江 松平右京大夫

村上江 間部越前守

中津江 御加増 奥平太膳大夫

壹万石

宮津江 青山大膳亮

飯山工 御加増 本多若狹守

壹万石

一二之九御留守居菅沼長兵衛病氣二付

願之通御役 御免之旨被 仰付

一十二日 當四月於増上寺御法夏有之

二付固々勤番被 仰附之旨老中被申

被左之徒

内藤右京亮 松平越中守

稻垣和泉守 戸田淡路守

一御法夏御用被 仰附之旨老中被申渡

左之徒

御勘定組頭 稻葉與一右衛門

御代官 會田伊右衛門

同奉 堀内六郎兵衛

漆奉行

藤井善右衛門

同

佐藤權九郎

一月次之講釋有之林七三郎勤之例之通

請役人出座

一十三日 無別義

一十四日 増上寺 御靈屋 御名代

戸田山城守被仰附

一明十五日 月次之御礼有之表向五半時

一桶之由

一十五日 辰ノ后刻御表仁出御月次

之御禮如例月相濟并御礼衆有之

天享吾妻鑑卷三百十四
一十一日 仰附左之通
一十二日 仰附左之通
一十三日 仰附左之通
一十四日 仰附左之通
一十五日 仰附左之通
一十六日 仰附左之通
一十七日 仰附左之通
一十八日 仰附左之通
一十九日 仰附左之通
二十日 仰附左之通

天享吾妻鑑卷三百十四

一十一日 仰附左之通

至六月

一十二日 仰附左之通

一十六日 松平近江守御藏米壹万俵之

處筋目被 思召地方壹万石之高 = 被

成下之旨

一十八日 城引渡被 仰附左之通

高崎 御使番 角南主馬

御書院番 松平次郎左衛門

村上 御小姓 遠山十左衛門

中津

御使番

諏訪兵部

同

寛新太郎

御小姓組

川勝刑部

御使番

山岡孫七郎

御書院番

佐野與七郎

官津

飯山

倉橋内匠

御小姓組

久具惣左衛門

一十九日 宇治工可被遣之由被 仰附

左之輩

御徒頭

本多久五郎

御數寄屋方

村田慮齋

一廿日 亡父願之通跡式無相違能登守

工被下新田二千石仲へ被下之旨被

仰附左之通

兵庫頭嫡子

松平能登守

能登守弟

同 仲

一廿一日 於 御座之間被 仰付左之

輩

御留守居

中川淡路守

大目付

内藤日向守

御書院組頭
内藤日向守跡

户田主膳

一 繼目之御礼左之徒

金田猪之助

户田孫七郎

一 廿五日 本庄深川屋敷改被仰附左

之通

御書院番

酒井新次郎

一 廿八日 月次之御礼相濟并阿蘭陀人

力七夕二人御礼

一 晦日 青朔日月次之御礼無之候間不

及出仕候由被仰出

三月

一 二日 九時御白書院へ被遊所出御阿

蘭陀人罷出音曲 上覽御吸物御酒被

下之

一 三日 上巳之御礼

一 五日 來月就御法夏参向之公家衆御

馳走人被仰附左之通

勅使

亀井隱岐守

法皇使

秋月長門守

女院使

北條遠江守

女御使

勅額使

細川長門守

一來月於増上寺御法事中火之番被仰

附左之輩

水野造酒之助

大久保玄蕃

一七月 本儿頃御捨鷹二成候ヲ存寄テ

戸田孫七郎

申上御投飼場工差遣鶴飼候二付為御

褒義被下之左之通

時服二

御鷹匠頭

戸田五助

一致中絶候處鶴飼候二付為御褒義被下

之左之通

銀五枚

御鷹匠

中田甚三郎

一十一日 御三家方水戸少將殿御登

城於御白書院御縁頼老中二被謁四時

過大廣間へ出御諸大名御下段並居

一同二 御目見上意有之追付被遊

入御候其以後林七三郎御條目讀之

御條目天和御法令之通奥書計爰

二記

右之條之堅可相守之當家代々潤色之

故無所改正仍天和法制者也

享保二年三月十一日

一御條目御用就相勤拜領之左之徒

御刀 二字國俊
代五百貫 户田山城守

時服四 林 大學頭

一申同三 同七三郎

一 同三 同百助

一 同三 本目權左衛門

一十二日 四時過大廣間へ 出御諸役

一人寄合迄御下段並居一同二 御目見

一上意有之追付被遊 入御候其以後林

一 百助御條目讀之

一十五日 月次之御礼有之

一十七日 月次之講釋有之林百助勤之

一廿二日 尾張中納言殿へ御暇被進

一廿五日 小十人能勢三十郎組與頭為

木甚右衛門常々勤方不宜二付御役被
召放小普請入急度遠慮可仕之被仰

一附
一廿八日月次之御礼有之

一朔日月次之御礼有之

一養仙院様御用人宿谷源右衛門二百
一石御加增被下之

一五日勅額於御黒書院御拜覽
一七日勅額使御對顔畢而入御以

一後於御白書院御饗應有之御暇被仰
出左之通

一銀百枚時服十濕野井前中納言
一九日勅額為御禮横瀬駿河守京都一

一可被遣之旨被仰附
一上方筋御用二罷越候二付御暇被下左

一之徒
一伊勢伊勢守

一稻生次郎左衛門
一十二日月次之講釋有之林百助勤之

一十三日 叅勤之御礼有之繁多故略之
 一十五日 月次之御礼無之御暇被下之
 一十八日 三枝丹波守願之通松平薩广
 守家來桂織部次男養子二被 仰付
 一本多外記願之通水谷信濃守三男平藏
 養子二被 仰附
 一廿日 上野 御靈屋へ被為 成
 一廿一日 御書院井上讚岐守組天方主
 馬本所奉行被 仰付
 一廿二日 御幕奉行福生忠左衛門病氣

一依願御役 御免被 仰附
 一御役替被 仰付左之通

御幕奉行 松平志广守組ヨリ
 福生忠左衛門跡 海野新左衛門

一廿四日 御書院番頭伊澤播磨守尾州
 一 上使二可被遣之旨被 仰付
 一廿五日 御法喜中増上寺へ 御名代
 一阿部豊後守
 一御法事二付方丈へ以 上使檜御重一
 一組被遣

一御法夏二付増上寺勤番之面：一上
一使大久保長門守
一廿六日跡目被仰附候大勢故畧之
一廿八日月次之出仕有之候御法夏故
一御表江不被遊出御
一廿九日被増上寺御靈屋一束帶帶劔
御参詣
五月
一朔日月次之御礼有之
一御法夏御用相勤候二付為御褒美被下

之左之通
御刀備前長光代五 百貫久世大和守
一日光御宮一為御名代松平下総守
一可被遣之旨被仰付
一有章院様御佛殿御手傳仕廻候二付御
褒美被下左之通
御刀左弘安代五 百貫松平伊豫守
一有章院様御廟所御手傳仕廻候二付御
褒被下左之通
御刀城州國行代金 廿枚酒井修理太走

一二日 紀伊殿水野對馬守被為召高
林院殿御十三回忌 二付白銀百枚被遣
之旨被仰付
一井伊全翁死去 二付御香奠白銀五十枚
以 上使被遣
一西雄西堂金地院後住 被仰付之
一三日 東帶之御行列 二付紅葉山 御
宮へ 御社參今日御服被為 明始而
就被遊 御社參候御供之面へ 御酒
御吸物被下之

一四日 紅葉山 御社參相濟候 二付今
日惣出仕有之 今日鉄炮之御書付 出
一五日 端午之御礼如例 年有之
一六日 公家衆御馳走之御能有之
一七日 公家衆 御對顔御贈經之御礼
且又歸洛之御暇被仰出
一八日 畠山下總守中條對馬守大友因
幡守右三人間違之義有之 二付昨日遠
慮被仰付
一今日 御成雨天故相延

一九日 中山備前守被為 召金田猪之
助小石川屋鋪千五百九十坪余水戸殿
御願之通相對替被 仰付候間金田猪
之助水戸中納言殿濱町屋敷千二百九
十七坪余御同人目白臺屋敷壹万坪之
内三百坪被下之
一十一日 六半過隅田川龜井戸筋工被
為成
一十二日 御鷹之梅首鷄水戸殿紀伊殿
一工以物上使被遣之

一宗對馬守被為 召朝鮮人亥之禰中二
可致來朝之旨老中演達之
一十四日 紅葉山五ヶ所 御佛殿
御參詣
一十五日 月次之御礼相濟并御役替御
加增被 仰付左之輩

御留守居番 寄合ヨリ 石原勘右衛門
武藤庄兵衛跡

松姫様御用人 酒井對馬守組ヨリ 大岡三郎右衛門
川副新右衛門跡
御加増五百石

御切手番

櫻田御殿番

武嶋七九郎

三百表御加増

寄合

酒井伊豆守

同断

同

竹田豊前守

百表御加増

小普詰

太田伊兵衛

同断

同

日根藤助

一御先手三十人 有章院様御密塔勤番

二付為御麩表時服三宛被下之

一十六日 初而御鷹野 御成相濟候

二付御麩表被下面

一衣時服三 稻葉多宮

同

御徒頭

仙波七郎左衛門

同

林藤四郎

同

金田惣八郎

同

菅沼圖書

同

崔部新六郎

同三羽織

御舟手

向井將監

同三

大河内又十郎

同三羽織

伊奈半左衛門

同三

堀七郎兵衛

同三羽織

御鷹匠頭

戸田五助

同三羽織

石川源兵衛

同三羽織

小栗長右衛門

同二

御鷹匠 間宮彦六

銀十枚

御鳥見組頭 海野新五右衛門

同三枚

佐原長三郎

同十枚

関口三左衛門

同三枚

尾関七右衛門

同

真野久左衛門

同

山本又十郎

同

三橋平十郎

一十七日 赤紅葉山 御官人 御社参

一十八日 六時過小菅邊 被為成夜

五ヶ月前 還御

一十九日 関備前守中根宮内柴田酒之

一允右三人 當糺駿府之加番被 仰附

一廿一日 横田備中守常々 御奉公情出

一候二付千石 御加増被下

一長崎奉行被 仰付左之通

御使番 日下部作十郎

一廿四日 月次之講釋有之林百助勤之

一廿七日 日光御門跡御登城於

坐之間 御對顏相濟御饗應有之

一廿八日 月次之御禮有之

一廿九日 山王江被為不成

一 六月 月次之御禮有之

一 朔日 月次之御禮有之 小笠原峯雲御

一 禮過登城於御座之間 御目見於

御仲之間 葛坊御吸物御酒被下之

一二日 跡目大勢被仰付繁多故畧之

一三日 病氣二付願之通御役御免之

旨被仰付左之通 折井仁右衛門

一 御役替被仰付左之通

一 竹姬君様元方御納戸組頭ヨリ 折井仁右衛門跡 村田三郎左衛門

一 五日 知積院正僧正被仰付

一 御數寄屋頭小川林知遠嶋被仰付之

一 七日 牧野周防守被為召當月廿二

日 桂昌院様御十三回忌之御法夏於

增上寺有之二付勤番被仰付之

一西之丸下竹姫君様御屋敷御普請御
用相勤候二付御褒美被下左之徒
一時服二付御褒美被下左之徒
一同日赤村半四郎
一九日参勤之御礼有之大勢故略之
一朝五時傳馬町ヨリ出火下谷金杉迄焼
一十一日御暇之歟有之繁多故畧之
一十二日御礼御暇之歟有之大勢故畧
一十五日山王祭礼二付吹上工被為
成

一十六日御嘉定御祝有之
一十九日大御番頭酒井飛驒守病氣二
付依願御役御免被仰付
一土井豊前守組與頭間宮新八郎病氣故
依願御役御免跡役同組松波左兵衛
被仰附之
一土屋丹波守組佐野十太夫組頭二被
仰付
一戸川五左衛門三枝十兵衛大坂御目附
一代被仰附之

一川以使者差上之

一廿二日 無別條

一廿三日 二之九工被為平成

一廿四日 中月次之講釋有之林百助勤之

如例諸役人出座

一廿五日 遠慮 御免被 仰付左之徒

一廿 高家

畠山下總守

月 六月

中條對馬守

一廿六日 無別條

大友因幡守

一廿七日 跡日被 仰付之旨老中列座

若年寄侍座 二 被申渡左之輩

長崎奉行 備前守子 大岡三次郎

大嶋肥前守組 伊左衛門養子 秋山伊兵衛

戸田肥前守組 兵部少輔惣領 神尾伊織

三浦肥後守組 茂右衛門子 川口隼人

同人組 勘助養子 中川小源太

朽木和泉守組 右衛門養子 津金織部

御具足奉行 半之允子 松下半六

大久保淡路守組 左衛門養子 高林鄉藏

朽木和泉守組

庄助養子

植田庄三郎

大久保淡路守組

伊太夫惣領

比企市十郎

御醫師

玄替惣領

井上玄教

支配勘定

弥十郎養子

加藤彌七郎

蓮淨院殿

弥惣左衛門兼子

河村十助

御廣敷漆番

清九郎養子

河田吉彌

御奥火之番

安仙養子

狩野友甫

繪師

弥太夫養子

中村彌惣兵衛

御疊大子

一明廿八日月次之御礼有之表向五半時

揃之由

一廿八日辰之中刻御表へ出御月次

之御礼相濟

一御役替被仰付之旨老中被申渡左之

輩

道奉行

酒井下総守組ヨリ

大久保新六郎

御金奉行

小十人小笠原七右衛門組頭ヨリ

戸田忠兵衛

平井三九郎跡

一病氣ニ付願之通御役御免之旨老中

被申渡

平井三九郎

一廿九日 増上寺 御靈屋江 御名代

久世大和守

一明朔日月次之御礼有之表向五半時揃

之由

七月

一朔日 替辰ノ后刻御表江 出御月次之

御礼相濟

一諸太夫ニ被_レ仰付長崎へ御暇被下左

之通

日下部作十郎

一二日 無別義

一三日 同断

一四日 同断

一五日 孟蘭盆ニ付日光へ可被遣之旨

被_レ仰付左之通

松平主馬

一六日 無別條

一七日 七夕之御礼如例年有之

一八日 上野 御靈屋江 御名代相濟

一九日 無別義

一十日 上野三御靈屋へ御名代相濟

一十一日 御手傳被 仰付左之輩

神田橋御普請 戸澤上總次時初

鍛冶橋御普請 加藤出羽守

一朝鮮人來朝之御用七三郎百助へ被

一仰付之間大學頭儀年寄候間指添心

一付候様二被 仰附

一二月日 無別義 林 大學頭下左

同 七三郎

一廿五日 無別義 同 百助

一十二日 月次之講釋林七三郎勤之

一十三日 願之通屋敷相對替被 仰附

一左之輩

一廿七日 安藤志摩守

一廿八日 永井彌右衛門

一廿九日 林野百助

一三十日 小川長左衛門

一三十一日 紅葉山六ヶ所御靈屋江被

一為成

一十五日 月次之御礼如例年無之

一十六日 居城侍屋敷其外燒失三付被

為 召之金一万兩拜借被仰附之旨

老中被申渡左之通

真田伊豆守

一十七日 紅桑山 御宮江志御名代井

上河内守

一十八日 御暇之面之數多有之

一十九日 二之九被為大成

一廿日 無別義

一廿一日 同断

一廿二日 同断

一廿三日 吹上被為成

一廿四日 無別條

一廿五日 明廿六日御鷹野二御成之

御沙汰

一廿六日 中川邊御鷹野二被為成

一西之丸表向御普請御用被仰附左之

輩

駒木根肥後守

柳澤備後守

久松大和守

一西之丸真向御普請御用被 仰付左之

一徒 加藤右近

石河庄九郎

一明廿八日月次之御礼如例五半時揃之

一由 辰ノ中刻御表へ 出御月次

一廿八日 御礼有之 并初而 御目見大勢有之

一廿九日 増上寺 御靈屋 御名代

久世大和守被 仰附

一明八朔之御礼表向五時揃之由

八月

一朔日 辰ノ中刻御表 出御八朔之

為御祝儀御三家方始諸大名御太刀目

録ニテ御礼申上

一二日 無別條

一三日 願之通隱居家督被 仰附之旨

老中被申渡

板倉甲斐守

同 出雲守

一跡目被仰附之旨老中被申渡左之徒

大名 板倉甲斐守 越前守嫡子 板倉百助

同 仙石信濃守 又兵衛養子

御目附 高林万五郎 三左衛門子

鈴木能登守組 佐野甚次郎 兵八郎子

松前伊豆守組 澤勝之允 伊左衛門子

朽木和泉守組 杉三之允 藤兵衛養子

同人組 西尾猪之允

中川伊勢守組 源右衛門子 飯河源太郎

大久保淡路守組 傳五郎子 三桂左内

中川伊勢守組 源三郎養子 植村長三郎

大嶋肥前守組 治太夫養子 石井五左衛門

中川淡路守組 武太夫養子 石寺七右衛門

大久保淡路守組 宗說子 山崎清之助

大嶋肥前守組 雲佐養子 岡部養佐

小番請方 備中養子 溝口九兵衛

大工棟梁

一四日 病氣ニ付願之通御役 御免之

一旨老中被申渡左之通

三澤庄兵衛

一御役替被仰附之旨老中被申渡左之

通

御本丸御

稻生安房守組ヨリ

石野半藏

廣敷番頭

御納戸組頭

元方御納戸ヨリ

竹本一郎五郎

御具足奉行

御腰物方ヨリ

福嶋五左衛門

一五日無別義

一六日屋敷替被仰付左之通

一十七日小笠原主膳屋鋪被下之

有馬兵庫頭

一十八日屋敷御用二付被

召上為代地北濱

一十九日町牧野備後守上ヶ屋敷割殘千六百

一十坪余建長屋凡二被下之旨被仰付

小笠原主膳

一七日御礼衆有之

一駿府御目付可被遣之旨被仰附左之

通

平岩七之助

一八日 無別条

一九日 雨天ニ付 龜戸中川邊 御成

御延引

一十日 上野 御靈屋 江 御名代阿部

豊後守被仰附

一十一日 無別義

一十二月 月次之講釋有之 林百助 勤之

例之通 諸役人出席

一十三日 無別條

一十四日 明十五日 月次之御礼如列表

向五半時揃之由

一十五日 辰之中刻 御表 出御 月次

之御禮相濟

一御役替被仰附 左之輩

大御番頭 御書院番頭ヨリ 戸田備後守

酒井飛驒守跡

百人組頭 火消ヨリ 溝口式部

諏訪主殿跡

御書院番頭 火消ヨリ 松平駿河守

戸田備後守跡

御小性組番頭百人組頭
松平伊勢守跡 諏訪主殿

火消松平 寄合ヨリ
駿河守跡 酒井主馬

火消溝口 寄合ヨリ
式部跡 秋山三四郎

一十六日願之通隱居家督被仰附之
旨老中被申渡左之通

一十新庄土佐守折井淡路守
一尚同平右衛門由日同市左衛門

松野壹岐守 布施出雲守

一廿同八郎兵衛 同藤兵衛

一廿櫻井庄之助 堀織部

一廿同又左衛門 同官内

一廿小林勝之助 万年佐左衛門

一廿同平藏 同左門

一廿中川左平太 服部仲

一廿同千太郎 同久太郎

一廿同十左衛門 多田喜右衛門

一廿同 同喜六郎

一廿同 同喜六郎

同 弥四郎

阿部忠右衛門

同 田三次郎

同 田三次郎

一己ノ後刻ヨリ風雨強至未ノ刻大風同

后刻静ル

一十七日 紅葉山 御宮 江 御名代戸

田山城守被眼仰附

一十八日 又無別条

一十九日 同断

一廿日 御書付出ル

御書覺

一新金出來候ニ隨ヒ乾字金段ニ引替候

ニ付世上ニ相殘候員數追日減少候依

之乾字金通用候亥當酉ノ年ヨリ來戌

亥ノ歲迄三ノ年ヲ限リ翌子ノ歲ヨリ

世上之通用一切可為停止事

一乾字金通用年數終リ停止之後ニ至テ

モ或ハ遠國前ニ之通ニテ未引替相殘

リ候モ有之候ハ、引替所ニテ新金ニ

引替可申度

右之赴國ニ所ニ至迄可存此旨也

酉ノ八月

一廿一日 月次之講釋無滞相勤候二付

被下之左之輩

時服四國前之藍林ノ大學頭時

同三並所奉邊共御同止七三郎

同三並所奉邊共御同止百助

一廿二日 無別義

一廿三日 同断

一廿四日 就御代替久野江御名代

堀川兵部太輔被仰附之

一廿五日 願之通縁組被仰付之旨老

中被申渡左之輩

戸田采女正娘 永井伊豆守

大久保長門守娘 伊東主膳

牧野八太夫娘 大久保彦左衛門

一廿六日 無別条

一廿七日 明廿八日月次之御礼有之表

向五半時揃之由

一廿八日 辰ノ后刻御表 出御月次

之御礼被為請

一廿九日 無別義

一晦日 増上寺 御靈屋へ 御名代阿部豊後守被仰付

一廿八日 無別義

一廿七日 無別義

一廿六日 無別義

一廿五日 無別義

一廿四日 無別義

一廿三日 無別義

一廿二日 無別義

一 享保二丁酉年 至十一月晦日

九月

一朔日 月次之御礼

一御役替被仰付左之徒

西丸御切手番頭 竹本佐守組ヨリ
内藤半兵衛跡 山岡佐太夫

小笠原七右衛門 組竹本土佐守組ヨリ
頭戸田忠兵衛跡 比留清右衛門

一四日 日光御門跡迄 御登山ニ付御

一 登城御對顏御饗應有之

一 八日 紅葉山へ被為成

一 十一日 万石以上在府之面々於御

前領知之御判物御朱印頂戴之被 仰

附

一 十二日 万石以上在國之輩於御前

一 領知之御判物御朱印名代之面々頂戴

一 御判物御用相勤候ニ付於御前被下

之左之輩

御刀延壽 代金廿五枚 阿部豊後守

御刀長光 代金十三枚 朽木民部少輔

御刀遠近 代金十三枚 石川近江守

一 御朱印御用相勤候ニ付被下之左之徒

一 廿 銀廿枚時服三 林大學頭

一 同廿枚時服二 同七三郎

一 同断 同百助

一 時服二 飯高市郎兵衛

一 金二枚時服二 本目木工右衛門

一 同断 松田忠次郎

同断

可兒孫十郎

一十五日 月次之御禮有之

一十七日 紅葉山 御宮 御社参

一十九日 於 御前阿部豊後守御役

御免

一廿五日 阿部豊後守儀為伺御機嫌罷

一出候節 八雁之間 出御之節 御目見

八西湖之間 御縁頗可罷出之旨被

付

一廿六日 柳生備前守願之通 養子被

仰付之左之通

松平豊前守

池田庄之助

一廿七日 於 御前被 仰付左之輩

加判列被 仰附 水野和泉守

所司代 松平伊賀守

若年寄 石川近江守

一屋敷替被 仰付左之通

水野和泉守屋鋪 阿部豊後守

阿部豊後守屋鋪 水野和泉守

永井文九郎屋鋪 石川近江守

石川近江守屋敷工 永井文九郎

一廿八日 水戸中納言殿御暇二付竹之

間二テ御饗應有之

一廿九日 十月

一朔日 月次之御礼有之

二日 長福様 小次郎様御表仁被為

成在合之面ニ 御目見

一五日 於 御前安藤右京亮寺社奉行

二被 仰付 御玄猪御祝相濟

一七日

一九日 跡日被 仰附左之輩

御小性組番頭 伊勢守子 松平甚三郎

同人次男 同 多官

御旗奉行 上總々養子 小幡孫市

松前伊豆守組 弥三郎子 山下弥市郎

酒井對馬守組 十左衛門惣領 内藤平十郎

寄合 讚岐守惣領 永井采女

同人二男 同 主計

西之丸御坊 平藏心領 内藤弥兵衛

子御門番頭

鈴木能登守組

八兵衛子

西山龜之助

朽木周防守組

求馬子

神谷元次郎

大久保淡路守組

式部養子

小堀山三郎

松前伊豆守組

市十郎養子

伊東喜太郎

中川伊勢守組

勝三郎養子

安藤八十郎

道奉行

權兵衛子

松下新太郎

稻葉安房守組

鉄之助子

三宅與一郎

御腰物方

兵助惣領

蘆原百助

大久保豊前守組

次郎左衛門子

深尾五郎八

中川伊勢守組

次郎左衛門子

西尾忠四郎

大久保淡路守組

半七郎惣領

長崎半之丞

松前伊豆守組

金十郎養子

伊勢右衛門

大久保淡路守組

源兵衛嫡男

大津彦太夫

御代官

金左衛門惣領

南條傳藏

大久保淡路守組

五兵衛養子

近山又四郎

大嶋肥前守組

新阿弥養子

池田貞阿弥

建部兵庫組

市郎兵衛惣領

山川覺弥

朽木周防守組

弥十郎養子

成田六之助

春光院殿附添番

五右衛門養子

川合元右衛門

大久保淡路守組

三郎惣領

神尾左仲

松前伊豆守組

加兵衛次男

鹽藤右衛門

瑞春院

五右衛門養子

清水利之助

朽木周防守組

半兵衛養子

飯嶋平右衛門

御表御臺所人

勘藏養子

河合源之助

一十一日 西八子橋ヨリ田安明地へ五

時被為

成

一十四日 増上寺江被為成

一十九日 月次之御礼有之

一御徒頭新庄伊織就病氣依願御役 御

免被 仰付

一龜元隼人正組山岡傳五郎御徒頭ニ被

仰附

一十六日 吹上江被為成

一月光院様御廣敷番頭本多權左衛門於

大久保佐渡守宅ニ逼塞小普請入被

仰附

一廿一日 御誕生之御祝義首尾能相濟

一廿二日 谷播摩守同右京被為 召之

願之通隱居家督無相違右京へ被下之

旨被 仰付

一安藤治右衛門組富士市左衛門大坂御

金奉行被仰付

一廿三日濱御殿江被為成

一廿五日一昨廿三日濱於御殿乘馬

被仰付候御供番之内今日被為

召時服二宛被下之左之通

御小性組戸田肥前守組

酒井民部花村善左衛門

嶋田甚五郎朽木半之助

片田万次郎安部左衛門

御書院伊澤播磨守組

松波甚兵衛川窪求馬

大久保忠右衛門弓兼田源七郎

松平次郎左衛門松前隼人

一廿六日水戸へ為上使鈴木能登守

被仰附

一御役替被仰付左之通

屋敷改山岡御書院阿部遠江守ヨリ
傳五郎跡朽木十兵衛

一縁組左之通被仰附

森川出羽守養娘 酒井主馬

松平志广守娘 小出主計

山本藤四郎娘 山本伊右衛門

佐野三之丞姉 伊丹三郎右衛門

一廿八日 月次之御礼有之

一水野和泉守於御座之間京都御暇

御手自御羽織被下

十一月

一朔日 月次之御礼有之

一所替被 仰付左之通

淀江 松平和泉守

伊勢龜山江 板倉近江守

志摩鳥羽江 松平三之助

一松平伊賀守於御座之間京都御

暇御刀備後包平代金十枚時服五羽織

被下之

一二日 跡目被 仰附左之輩

寄合 三四郎子 久世兵部

酒井對馬守組 甚共衛惣領 佐橋辰之助

松前伊豆守組 新七郎惣領 小川傳藏

朽木周防守組

織部惣領

松平小左衛門

松前伊豆守組

喜藏惣領

中根喜八郎

同人組

主水養子

中西刑部

同人組

千之助養子

小笠原喜三郎

朽木周防守組

甚右衛門嫡孫

廣戸丑藏

拂方御納戸

喜四郎子

市井喜藏

松前伊豆守組

治左衛門

鈴木千之助

大久保豊前守組

新左衛門惣領

河内新五左衛門

中川伊勢守組

新助子

未高十兵衛

同人組

傳八郎子

田中半右衛門

大久保淡路守組

左平太養子

藤九郎

同人組

久右衛門養子

富山久七郎

同人組

喜太夫惣領

吉田長五郎

朽木周防守組

甚左衛門養子

大屋又次郎

松姫様

清左衛門惣領

石原源右衛門

元御膳所組頭

理右衛門嫡孫

小林八十郎

大久保淡路守組

角左衛門養子

山崎八右衛門

一五日 評定所御普請無之内自分宅二

予寄合仕候段太儀二 思召候依之御

褒義被下之左之通

時服五

松平對馬守

同

土井伊豫守

一七 日 六半時角田川へ被為自成暮六

時 還御

一十一 日 六半時堀重御門ヨリ御玄関

前通リ蓮池通リ吹上工被為成植木

御門ヨリ清水御門雉子橋神田橋常盤

橋鍛冶橋外通リ數寄屋橋御門ヨリ馬

場先御門内櫻田通リ被為入

一十二 日 御礼衆有之

一十三 日 御書付出ル

一十四 日 覺

一 去ル頃小石川養雄寺後通堀浚候處鉄

炮六挺引揚候右之鉄炮年來扱在之物

トハ不相見候就夫當其中被 仰出十

里四方之鉄炮不残取上ニ罷成候得共

出シヲクレ候者七有之右之通之品七

候哉若心得違此節迄不相達候分ハ不

苦候間當酉十二月十日迄之内出シ可

申候右日切相濟候以後隠シ置候段相

知候公、急度曲直被行二方可有之候

以上間書西十二月十日

一十五日酉十一月

一十五日御礼有之

一鉄炮洲御藏跡二ノ願之通屋敷被下左

之輩不睦是則疎大書

御内侍御禮有之稻葉若狹守

一十六日有馬内膳刻

一御仕置被仰付左之面々御免

死罪 天野左十郎業之

追放 神尾外記

神尾五兵衛

神尾弥五兵衛

右特共七同前御追放

一廿六日 諸役人一人宛可罷出之旨久

世大和守被申渡登城之處於芙蓉之

間老中列座若年寄衆侍坐大和守被申

渡候ハ今度小普請天野佐十郎御仕置

被仰附候依之御書付出候間可承之

旨ニテ本目權左衛門御書付讀之畢テ
猶又組々へ七右之赴入念可申之旨

覺

一今度天野佐十郎義無尽金ヲ企其上金
子之膽剪等致之逐電仕賂リ夕儿義氏
有之ニ付テ死罪ニ被仰附且又神尾
五兵衛神尾弥五兵衛神尾外記亥無尽
金之連中ニ罷成追而掛金迄遣ニ侍之
仕間敷儀ニ付テ追放等被仰付候常
ニ組支配之内不行跡之聞へ有之輩心

ヲ不附其終ニテ指置又ハ惡敷風俗之
同類大勢在之ヲ於不存ハ頭支配人迄
可為越度候間諸亥心ヲ掛可申候以上

酉十一月廿六日

一廿八日 月次之御礼有之

一戸田土佐守病氣ニ付依願御役 御免

一廿九日 大嶋因幡守三嶋清左衛門御

役 御免被仰附

